



弥彦村はこんなまち

弥彦村は、新潟県のほぼ中央部の日本海側に位置し、西は霊峰弥彦山（634m）を隔てて新潟市・長岡市と接し、東南は燕市、北は新潟市とそれぞれ肥沃な穀倉地帯を隔てて隣接しています。

近年は、交通網の発達により時間、距離も大幅に短縮され、立地条件に恵まれて県内はもとより首都圏・関西方面との結びつきもより強くなり、新潟県内屈指の観光地となっています。

弥彦村は独自の歴史的・文化的背景を基に、個性ある村づくりに励むとともに、調和のとれた地域社会の創造と発展をめざしています。



彌彦神社

弥彦村の歴史

弥彦村は古く神代（かみよ）の時代、天照大神（あまてらすおおみかみ）の曾孫の天香山命（あめのかごやまのみこと）が、日本海を渡り、弥彦山西側にあたる野積海岸（現長岡市）に上陸され、住民に海水から塩を作る方法や、網や釣針を使った漁法を教え、その後この弥彦の地に鎮座され、農耕技術など様々な産業の基礎を授けたと伝えられています。

故に弥彦村は「越後文化発祥の地」と言われ、彌彦神社の門前町として、また北国街道の宿場町として人々が行きかい、賑わいのある町として栄えてきました。明治34年11月1日には弥彦村、桜井郷村、矢作村の三村を合併して新生「弥彦村」が誕生し、以後今日に至るまでほとんどその形を変えることなく、100余年が経過しています。

観光・特産

～彌彦神社～

新潟県随一の観光地。特に越後一宮「彌彦神社」はパワースポットとしても有名で、多くの人を訪れます。

～弥彦山～

「弥彦山」山頂には彌彦神社の神様が妃神と夫婦で祀られています。634mの弥彦山へは、登山・ドライブ・ロープウェイと色々な登り方があり、山頂からは日本海と越後平野が見渡せます。



弥彦山

～田園・伊彌彦米～

彌彦神社の神様は、新潟に稲作を広めたといわれており、そのおひざ元である弥彦村には豊かな田園風景が広がっています。この地で収穫された農薬・化学肥料を50%以上減らして栽培された特別栽培米コシヒカリを彌彦神社にちなんで「伊彌彦米」と名付け、平成28年より弥彦村のブランド

米として食卓へお届けしています。



田園風景



伊彌彦米

～温泉・もみじ～

弥彦登山や彌彦神社参拝のあとは「弥彦温泉」で疲れを癒してください。彌彦神社の門前町の温泉街には10軒の旅館があります。また、温泉街に隣接の「弥彦公園」は約16万㎡にも及ぶ広さがあり、桜やツツジ、菖蒲など、四季折々の花々を楽しむことができます。特に秋は絶景で、県内外から大勢の観光客が訪れる全国有数の紅葉名所です。



弥彦温泉



弥彦公園のもみじ谷

天測点と子午線標

弥彦山と尾根つづきの多宝山の山頂には、「天測点」があります。天測点は一等三角点の位置での鉛直線偏差の測定及び一等三角網の方位規正のために実施する天文測量の際に、測量機器（子午儀）を設置するための石柱（四角柱）です。また天測点（多宝山山頂）から約4.1km真南の弥彦村大字麓の山中に、子午線標（子午儀を正確な方位に設置するための目印の石柱）が設置されています。1955年（昭和30年）に設置され、機器の軽量化により現在は使われていません。



天測点



子午線標